

平成26年度 第5回石巻市震災復興推進会議 会議録

1 日 時 平成27年3月29日（日）14:00～16:00

2 場 所 石巻市役所 庁議室

3 出席者 【委員】17名（別紙参照）

【市】市長、各部長、各総合支所長、関係部次長課長等、事務局（復興政策課）

【オブザーバー】（別紙参照）

4 会議概要

（1）あいさつ（丸岡会長）

- ・任期中、最後の会議となる。今後については、衣替えして継続すると聞いている。本日は、この3年間で感じていること、申し送りたいこと等、意見を一人ひとり伺いたい。
- ・来年度で、集中復興期間が終了する。国も地方も財源が縮小し、より一層地域住民と行政が一緒にやっていかなければならない。

（2）議 事

ア 報告事項

(7)提案等に対する取り組み状況について【資料1】（説明：石橋復興政策課長補佐）

●石巻駅周辺の交通混雑緩和策について

【馬場委員】

市立病院建設の話があった時点では、近隣住民は近くに病院が建設されることを喜んでいたが、現在は、開院後の交通渋滞を危惧している。素人の考えであるが、らせん状の跨線橋を提案したい。また、七窪蛇田線の整備で穀町の渋滞が心配される。

病院西側に駐車場を整備することであるが、病院職員や関係者、ささえあいセンター等を含め、この際、職員駐車場も考えてはいかかがか。

【大澤建設部次長】

現在の跨線橋の計画は、市立病院に直接入る救急車の通行としており、一般車両は通らない。歩行者、緊急車両のみの通行を想定している。

らせん状の跨線橋は考えていなかったが、JRや市道の面積上難しい。

七窪蛇田線は平成27年度から工事を開始する。穀町に入らず南中里地区に行けるので渋滞緩和につながると考えている。また、小川町踏切を拡幅して、一方通行から交互通行にし、更に歩道を設置する計画があり、現在、基本設計を実施している。

【和泉総務部次長】

新市立病院西側の駐車場200台のほか市立病院1階に約50台、市役所立体駐車車が260台あり、合計500台程度の駐車が可能となる。利用状況を見ながら

検討したい。

職員駐車場は図書館にあるが、多くの職員は民間を利用している状況であり、職員用駐車場の整備は難しい。

【馬場委員】

現状では、このような回答なるものと理解した。将来的なことも含めて一考願いたい。

【丸岡会長】

十分な期間をかけて、検討願いたい。

(イ) 復興事業スケジュールについて【資料2】(説明：岡復興政策課長)

●スケジュールの記載方法について

【後藤委員】

3ページの市街地再開発事業の「立町二丁目5番地区」であるが、完成目標年次が「平成27年度」から「平成28年度」になっている。

間違いではないが、正しくは、「平成27年度末」から「平成28年度始め」である。丸々1年遅れるイメージがあり誤解を招く。月まで表示してはいかがか。

【岡復興政策課長】

前回の会議で、「平成27年度以降のスケジュールを大きく」という意見があったが間に合わなかった。スケジュール表の表示を大きくするとともに、備考欄でも表示していきたい。

●総合支所拠点整備について

【後藤委員】

29～30ページの雄勝・北上・牡鹿の拠点整備について、是非、このスケジュールのとおりお願いしたい。半島部と観光推進の話をし、復興に向けて頑張っている方が、待ちきれなくてリタイヤしている。

【木村牡鹿総合支所長】

鮎川では浮棧橋が設置され、金華山休憩所、情報交流館も整備される。防潮堤などの問題もあるが、海が見える商店街を計画している。

【武山北上総合支所地域振興課長】

北上地区について、公共施設はにっこり団地地区へ集約する。観光では、月浜地区に環境省でフィールドミュージアムを整備する予定であり、この中に物産館を整備する予定である。

【阿部雄勝総合支所地域振興課長】

雄勝地区は特に高齢化が高い地域である。県事業である防潮堤、県道整備と市の防集事業の調整を行いながら事業を進めている。

●大川小学校の復旧について

【大槻委員】

25ページの市立小・中学校災害復旧事業について、大川小学校が計画に載っていない。市報2月15日号には「検討中」とある。これからのスケジュールは。

【草刈教育委員会事務局次長】

移転新築を予定しているが、大川地区の復興状況を勘案した上で検討することとしていた。

【大槻委員】

児童の自然減少であれば統合も理解できるが、震災であるため復旧が必要である。

【草刈教育委員会事務局次長】

要望等を踏まえて検討したい。

【大槻委員】

震災から4年が経過した今、このような状況で良いか。

【草刈教育委員会事務局次長】

現在、児童数が29名であり、適正な学校児童数や今後の推計などをして検討したい。

【丸岡会長】

スピード感をもってお願いしたい。

●複合文化施設について

【西條委員】

文化ホールの計画（予定）は入っているか。

【岡復興政策課長】

複合文化施設については、現在、用地を含めて規模を検討している。計画概要が固まり次第掲載したい。

●防災集団移転促進事業について

【佐々木委員】

12ページの防災集団移転促進事業の「事業調整」の具体的な内容は。

【齋藤復興事業部次長】

具体的には、水道工事や用地の調整である。

【佐々木委員】

遅れる期間はどの程度か。

【齋藤復興事業部次長】

半年から数か月の遅れである。

【佐々木委員】

私も9月に引き渡しを受けた1人であり、地域でよく聞かれることで、引き渡しから1年以内の着工が前提であるが、猶予はあるのか。

【齋藤復興事業部次長】

原則1年以内としている。事情があれば個別に相談願いたい。

●仮設住宅の問題について

【山崎委員】

震災から4年が経過し、仮設住宅に取り残される方などの問題が出てきている。集約の方法など仮設住宅の状況もこのスケジュールに載せてほしい。児童・生徒数などのデータも必要ではないか。

【庄司福祉部次長】

133地区に7,133戸整備した仮設住宅であるが、未だ6,000戸弱が入居状況である。仮設住宅の長期化もあり、高齢者、障害者など行先が判断できていない方について心配しているところ。平成27年度からは自立生活支援専門員と自立生活支援員を設置し、仮設住宅からの円滑な移転を支援することとしている。

また、仮設住宅の集約に関しては議会でも取り上げられていることであるが、入居率が高い現時点においては、難しい状況である。

【亀山市長】

被災者自立支援システムを整備し、個別にきめ細かい対応をすることとしている。

イ 意見交換

(7) 今後に向けて（各委員から、これまでの総括を発言いただいた。）

【伊藤委員】

住宅再建、インフラ整備も進んできた。これからは物から人に目を向けて、健康、子どもの育成など夢のある事業、心の復興に力を注いでほしい。

【大槻委員】

これからも市民目線での進行管理が必要である。

【尾形委員】

市民の状況も変わってきている。ここにきて差が生じてきている。市役所内でも温度差があると感じる時がある。市民と一緒に進むことをお願いしたい。また、「若い労働者の誘致、起業」が大事であり、セクションを作るべきである。

【小野委員】

漁協の立場で参加させていただいた。まずは無理な依頼への対応について感謝する。組合員も防集、魚集について非常に喜んでいる。

ただし、十三浜支所では事務所の建設を予定しているが、高台移転の計画が進んでいないため、事業を進めてほしい。また、牡鹿半島地区の一部では地盤が38cm上がり、岸壁との高低差が生じており、漁業者が苦勞しているため、はしご等を増やすなどの対策をお願いしたい。

【兼子委員】

このような会議の委員に選定いただき感謝している。外部のNGO、NPOが市内に入り、市内のNPOも増加している。

女性の育成や子育て支援の活動をしており、更なる御支援をお願いしたい。また、女性委員の増員もお願いしたい。

【久門委員】

医師会の立場で参加させていただいた。医療環境としては、この4年間、石巻赤十字病院の増築、市立病院の開業間近、各市立診療所や夜間急患センターも目途がつき、良い方向に向いている。

これからは、地域包括ケアを推し進めていくことが大事である。

【後藤委員】

震災から4年が経過し、最近「疲れた」と感じる。震災後、市民全員が復興に向かって同じ方向を向いていたが、最近は「個人の利益」を優先する意見も出てくるようになった。

駅周辺では、市立病院、再開発、交通渋滞等の懸念材料もあるが、是非、市立病院には地元業者からスリッパやパジャマなどの用品を納入していただくよう働きかけを行う予定である。

集中復興期間後の財政支援の縮小について、県も懸念している。国に働きかけるときは我々民間もお手伝いしたい。

これからは、行政が市民に対し、将来目標や夢を語ってほしい。

【西條委員】

まちづくりを初めて1年後に震災があり、それ以来、遅くまで会議をしたり市と情報交換をしたりした。委員会、懇談会、ワークショップなどを開催しているので職員も入ってほしい。

また、街なかに公共施設を要望しているが、公営住宅やかんけい丸など限定的であるため、是非お願いしたい。

【吉田（祐）委員】

社会福祉協議会で仮設住宅の訪問支援を担当している。地域に入ると個人情報の関係もあり難しいこともある。被災者が取り残されないよう市と連携して支援していきたい。

【吉田（忠）委員】

心の復興が大事である。地域包括ケアの推進や人口減少、雇用確保について、地域住民・町内会・行政が連携して事業展開をする必要がある。

【吉田（薫）委員】

他の市町村に比べ復興が遅れている。特に、沿岸部のスピードアップをお願いしたい。また、沿岸部の若者、子育て世代が帰ってくるような施策（家賃補助など）をお願いしたい。

【山崎委員】

みなしを含め仮設住宅では周り全てが被災者であり、攻撃的な強い要望もあったが、対応いただいた行政にお礼を言いたい。

10年、20年先には高齢化が進み、産業構造も変化している。市街地の発展にはJRの活用など動脈を整備する必要がある。目指す方向を考えながら実施してほしい。

【増田委員】

仮設住宅から復興公営住宅へは、希望する住宅へ入れるようお願いしたい。

【藤井委員】

あつという間の3年間であった。これからは「人づくり」が大切であり、自主性を持つよう、職員・市民・議会も変わらなければならない。

山下地区では協働のまちづくり、地域包括ケアなど住民同士の助け合いを推進している。地域が考えることが重要である。

また、考え方を換え、何事も「お金が入る、お金を稼ぐ」考え方をしてほしい。

【馬場委員】

身体障害者福祉協会として、復興公営住宅のバリアフリー化を要望した経緯があり、完成したものは非常に利用しやすいものでありお礼を申し上げる。

地域包括ケアについては、全国に先駆けた取組みであり頑張ってもらいたい。

縦割りから横の関係をどう構築していくかが問題である。縄張り争いを止め、本庁、支所の意志疎通をもっとお願いしたい。

【佐々木委員】

十三浜で被災し仙台に居住したため、委員として情報を地元伝えることができなかった反省がある。

J I A（日本建築家協会）宮城復興支援委員会に所属し、北上地区の高台移転などの取組みに参加してきた。

【丸岡会長】

今後に向けた参考として、産業、住宅の意見があったが、集中して意見があったのは「人」である。地域と行政の関係。

平成の大合併があり、地域包括ケアの推進など、10年後には国も市も「ゆとり」がなくなり地域との協働が避けて通れないものとなる。

これからも地域の元気を取り戻すためにお願いしたい。

（3）あいさつ（丸岡会長）

- ・石巻というこの地は、私にとって無知の土地であったが、3年間欠席することなく任期を終えることができた。皆さんに感謝する。

（4）あいさつ（亀山市長）

- ・3年間の任期中、皆さんの御協力に感謝する。
- ・震災から4年が経過したが、課題は山積している。復興公営住宅に関しては、平成27、28年度に3、200戸を目標にしている。
- ・また、仮設住宅については、取り残される方をどのように入居させるか。集約も空室率が20%を超えた段階で考えなければならない。
- ・職員の配置については、復興ステージに応じて必要な部署へシフトしている。
- ・次世代型地域包括ケアの推進について、内閣府から地域再生計画の第1号認定をいただいております。全ての方を地域で支えていく取組みを進め、住み慣れた地域で住み続けることができるよう推進していく。長い間、ありがとうございました。

以上

別紙

【出席委員17名】

氏名	所属	備考
伊藤和男	特定非営利活動法人石巻市体育協会 会長	
大槻幹夫	河北地区住民代表	
尾形和昭	株式会社街づくりまんぼう 代表取締役副社長	
小野喜夫	宮城県漁業協同組合 代表理事理事長	
兼子佳恵	環境と子どもを考える会 代表	
久門俊勝	一般社団法人石巻市医師会 副会長	
後藤宗徳	社団法人石巻観光協会 会長	
西條允敏	石巻市文化協会 会長	
佐々木文彦	北上地区住民代表	
馬場利一郎	石巻市身体障害者福祉協会 会長	
藤井勝	貞山三・四・五丁目自主防災会 会長	
増田敬	石巻仮設住宅自治連合推進会 会長	
丸岡章	石巻専修大学理工学部特任教授、東北大学名誉教授	会長
山崎信哉	石巻仮設住宅自治連合推進会 名誉会長	
吉田薫	雄勝地区住民代表	
吉田忠美	石巻市町内会連合会 会長	
吉田祐二	石巻市社会福祉協議会 事務局次長兼総務課長 兼ささえあいセンター事業副総括	

【欠席委員6名】

氏名	所属	備考
浅野亨	石巻商工会議所 会頭	副会長
渥美克之	牡鹿地区住民代表	
阿部洋子	石巻市民生委員・児童委員協議会 会長	
小野田泰明	東北大学大学院工学研究科 教授	副会長
高橋和子	河南地区住民代表	
松川孝行	いしのまき農業協同組合 代表理事組合長	

オブザーバー

宮崎潤太 復興庁宮城復興局 石巻支所